

太子高校は「みる」!

本年度は、「みる」をキーワードに、教育活動を展開します。校長通信では、太子高校が「今、みている」姿をお伝えできればと考えています。

夏の実り その2

西オーストラリア州パースへの短期語学研修（7月26日(金)～8月10日(土)）。

今年度から、本格的に本校の単独実施となり、期間も今までの9日間から16日間に拡大しました。活動の詳細な様子は、ホームページの国際交流の欄をご覧ください。私は、7月26日(金)から31日(水)まで生徒と行動を共にし、私と入れ替わりに吉倉先生が引率を引き継いでくださいました。真鍋先生は、16日間を通して生徒の引率をしてくださいました。

さて、16日間での生徒たちの「夏の実り」はどのようなものだったのでしょうか。

語学研修なので、英会話力はぐっと成長しました。ホームステイ先でもイースタンヒルズ高等学校でも、基本的に英語の会話です。特に、マウントヘレナ小学校で交流したときは、折り紙の説明や手遊び歌の解説を全て英語で行わなければなりませんでしたが、小学生に分かるように説明することの難しさもありました。午前中の2時間で、ぐったりと疲れてしまった本校生たちでしたが、この時から、彼女たちの頭の中で日本語から英語へとスイッチが切り替わったように思います。第二の言語を身につけるには、何か大きくて逃れられない転換点が必要なのだと感じました。

そして、精神的な自立です。「行く前からもう寂しかったんです」と言っていた生徒もいたほど不安でいっぱいだった彼女たちが、「もっとパースに居たいです」と語る成長ぶりを見せてくれました。いろいろなことを見、感じ、自分なりに消化した16日間。もちろん、全てが順風満帆で楽しいことばかりだったわけでもなく、程度は違っても、悲しかったり寂しかったり辛かったりしたこともありました。そういう経験も含め、この夏の実りがどんなもので自分がどう成長したのかに、彼女たち自身が気づくのは秋以降です。楽しみです。

ONE SHOT



夏の暑い日、蜘蛛の巣や砂埃で汚れがちな正面玄関の窓を、校務員さんが汗だくになりながら拭いてくださっていました。「こういうところは、学校の顔だから、きれいにしておかないとね。」と言いながら。

ふだん、何気なく通り過ぎるところにも、生徒や学校のことを思いながら働いてくださっている人の気持ちが、込められています。ほんとうにありがたいことです。

この写真、ちょっとスパイダーマンみたいではありませんか？

学校のカ・イ・ダ・ン

今、本館のトイレ改修工事の最中です。2号館は7月半ばに工事が終わり、見違えるようなトイレになりました。是非、学校においていただいております。工事中は、様々な関係者が出入りされますが、皆さん一様に生徒の活動を邪魔しないようにと、心を砕いてくださっています。工事の音を押さえること、廊下の行き来を妨げないこと、廊下の汚れを押さえること。生徒にも、そういう心遣いが伝わっているように感じます。ありがとうございます。